

## 1 学校教育目標

- 進んで学ぶ生徒
- 心豊かな生徒
- たくましい生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<伊興中に通わせて良かった> ○保護者・地域から信頼され、「入れて良かった」、「3年間学んで良かった」と思う学校 ○「今日が楽しく、明日の登校が待ち遠しい」学校 ○一人一人が大切にされ、出番が保証され、自己有用感を感じる学校
○生徒像	<伊興中生でよかった> ○主体的・意欲的に学習に取り組み、確かな学力・生きる力を身につけた生徒 ○自己を活かし、何事にも希望を持って粘り強くやり抜く生徒 ○いじめを許さず、互いの良さを認め合い励まし合うことができる心豊かな生徒
○教師像	<伊興中の教職員でよかった> ○生徒に対する愛情に溢れ、温かく、厳しく生徒を指導・成長させる教師 ○自らの授業を常に改善し、生徒の学力定着と進路保証に全力で取り組む教師 ○常に自らを高めようとする意識を持ち、謙虚に努力を重ねる教師 ○理想の学校創りに向けて協働して取り組むことに喜びを感じる教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

現状

### (1) 生徒

- ・大きな問題を起こす生徒や他校生徒との接触による問題行動がある生徒はおらず、授業には前向きな姿勢の生徒が大多数を占める。また、授業は、正常に展開されている。
- ・学力面では、区調査の平均レベル。学力不振の生徒が、各クラスに一定数いる。中1勉強合宿は、25名の生徒を対象に通所型で連携小学校と共に実施
- ・生徒会・部活動は、指導教員の尽力の下、意欲的かつ熱心に取り組まれている。特に吹奏楽部は、少人数ながら、好成績を残した。
- ・いじめの報告はあるが、すべて解決済み。重大事態になるような案件はない。他方、SNSをめぐる生徒間のトラブルは発生しているが、その都度、指導している。

### (2) 教職員

- ・平均年齢は39.82歳で、30代以下の教員が大半を占める若い教員構成である。校内研究推進主任を中心に、校内研修会を年間3回実施  
 「足立スタダードに基づく授業改善」をテーマに、精力的に研修を行い、各自が授業改善に努めている。

成果と課題

- (1) 成果 ; ①落ち着いた雰囲気です整然と授業が行われている。  
 ②若い教員が多いが、学校全体で研修を重ねて、より良い授業を創っていかうという学校の風土ができつつある。  
 ③大多数の保護者が学校に協力的で、地域も学校に支援を惜しまない地域性である。
- (2) 課題; ①学力の定着に差があり、下位層の生徒の学力を上げること。  
 ②家庭学習が不足している生徒が多く、保護者・家庭との一層の連携が必要であること。  
 ③不登校生徒が一定数(全校生徒の8%)おり、不登校生徒を増やさないことと共に、別室指導体制を拡充し、生徒の居場所を校内に設けること。  
 ④校内研修のリーダー役の教員が異動しても研修が継続発展するような体制の構築。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と社会的自立心の確立	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上と信頼される学校づくり	○	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項-1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)			コメント・課題		達成度 ◎○△●	
生徒の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力向上を図る。		・令和7年度区調査通過率 全学年55%以上	1年(国71.5数68.9英81.9) 2年(国70.5数54.0英54.0) 3年(国46.8数43.0英45.3) 全校(3科平均60.5 (国63.8数56.2英61.6)			3科の平均通過率は60.5%で達成基準はクリアした。一方で第三学年には課題が残った。また、全国平均を上回ったのは1年国、数のみであった。経年比較においても3年生はCD層の割合が増加し、基礎学力の定着に課題が残った。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業改善と 授業力向上	全教科・ 全学年 を対象 とする。	年に3 回以上 (学期 に1回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修推進委員会を中心に、足立スタンダードに基づく授業改善をテーマにした研修会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後の教員のアンケート</li> <li>・教科指導専門員の授業観察</li> <li>・生徒の学校評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後の教員のアンケートで、肯定的意見が80%を超える。</li> <li>・生徒アンケートで、肯定的意見が80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目は、足立スタンダードの概要説明。2回目11/26(水)3回目は2/10(火)実施。実施後のアンケートは95%肯定的意見</li> <li>・生徒アンケート肯定的意見90.5%</li> </ul>	<p>2回の授業研究はICTの活用をねらいとしたことで活用の推進となった。</p> <p>年度当初に研修を行い、3回の研究授業で計画を再構築する。</p>	○
2 継続	家庭学習確認テストによる放課後補充学習の実施	全学年 5教科で 補充を必 要とする 生徒	家庭学 習は毎日。 補充教室は木 曜日。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習としてAIドリルによる問題配信を実施。(1週間で100問)</li> <li>水曜日に確認テスト実施</li> <li>木曜日に補充教室実施</li> <li>・週末に、その状況を確認し対象生徒を学年体制で指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員・生徒アンケート</li> <li>・活用数の点検(AIドリル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・教員・保護者にアンケートで、肯定的意見が80%を超える。</li> <li>・AIドリルの活用月平均80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIドリルの活用生徒アンケート34.8%</li> <li>・保護者アンケート肯定意見は49.8%</li> <li>・週1回利用率(WAU)4月～12月の平均が39.9%。12月は79%と上昇。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はAIドリルを基本とした家庭学習が定着しなかった。配信方法と進行管理を見直し、次年度は新たな取り組みを再構築する。</li> </ul>	△
3	朝読書	全学年 朝読書	週3日 月火金 8時25 分～35 分まで の10分 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任を中心に、全学年10分間の読書を行い、集中力と読解力の向上。</li> <li>・図書館司書と連携し、図書館利用率を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの確認</li> <li>・図書館貸出冊数調査</li> <li>・教員・生徒アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区調査読解力に関する解答率</li> <li>・学校図書館貸出冊数を月350冊以上。</li> <li>・年度末の生徒アンケートで、肯定的意見が80%を超える。</li> </ul>	<p>区調査「読むこと」 全国平均比較 1年-2.6% 2年-0.1% 3年0%</p> <p>・学校図書館貸出冊数を月350冊以上。</p> <p>・年度末の生徒アンケートで、肯定的意見が80%を超える。</p> <p>区調査「読むこと」 全国平均比較 1年-2.6% 2年-0.1% 3年0%</p> <p>・学校図書館貸出冊数を月350冊以上。</p> <p>・年度末の生徒アンケートで、肯定的意見が80%を超える。</p> <p>区調査「読むこと」 全国平均比較 1年-2.6% 2年-0.1% 3年0%</p> <p>・学校図書館貸出冊数を月350冊以上。</p> <p>・年度末の生徒アンケートで、肯定的意見が80%を超える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や特別支援学級での図書室利用頻度は向上した。休み時間放課後の利用は上昇傾向にある。週2回の朝読書では継続性がなく、次年度は読書期間を設けて読解力向上を目指す。</li> </ul>	△

4	ICT機器を活用し、足立スタンダードの徹底	全学年・全教科	年間を通して、日常的に	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT推進委員会と研修推進委員会との推進計画の立案と運営を行う。</li> <li>特に、ICT機器の活用が不十分な教員を支援し、全員一人1回の研究授業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業の実施</li> <li>教員・生徒・保護者アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が1回以上研究授業を実施する。</li> <li>年度末の生徒アンケートで、肯定的意見が80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察期間において1回目は21名が2回目は26名がICTを活用した授業を実施。</li> <li>生徒アンケートではクロムブックの活用について肯定的意見97.9%。家庭学習での活用頻度が高い34.8%</li> </ul>	<p>研究授業、授業観察期間では活用は進んだが、日常的に活用状況に差がある。足立区DX推進プラン1stステージの全教職員の100%活用を令和8年度は実現する。</p>	△
---	-----------------------	---------	-------------	--	---	---	---	---	---

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心の育成と社会的自立心の確立				
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
生徒自らよりよい学校づくりに参画し、いじめのない「笑顔あふれる学校」「学校に登校するのが楽しいと思える学校」をつくる		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートで「伊興中の生徒でよかったと思う」と90%以上の生徒が回答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回生徒アンケート肯定的意見90.5%</li> </ul>	学校が充実しているの回答も91.9%で良好な生活をしている生徒が9割を超えている。	◎	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>						
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
居心地の良い、安心できる学年学級をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにより、肯定的意見が80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEBQUの活用、特に学年全体や学級同士での点検を行う。</li> <li>年度当初の学年学級経営案に、心理的安全性が高い集団をつくることを明記する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEBQU承認得点(高41.4%中46.2%低12.5%)</li> <li>要支援生徒の把握(1年4人2年6人3年5人)</li> <li>1回目の結果を学年会で共有。修学委員会で要支援生徒の共有と支援策検討</li> </ul>	コーディネーターが結果をまとめ担任のコメントを載せ、校内掲示板に掲載することで全教職員への周知ができた。	◎	
人権への配慮と豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにより、肯定的意見が80%を超える。</li> <li>生徒会による取組を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳において人権に関する内容を教育」を年間3回。</li> <li>○校長講話で年間3回。</li> <li>○いじめアンケートとWEBQUの結果を受けて情報交換会を年間2回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長講話6月と12月で実施。生活指導主任からも話をする。</li> <li>○WEBQUの情報交換は修学支援委員会と各学年会で実施。</li> <li>○生徒アンケート人権尊重について肯定的意見96.7%</li> </ul>	ふれあい月間人権週間は意識を高める機会となったが、次年度は生徒主体の活動を進めていく。WEBQUの研修会の充実を図る。	△	

社会的自立心の確立 凡事徹底	・「挨拶する」「生徒会 や委員会・係活動、ボラ ンティア活動に積極的 に取り組んでいる」と生 徒の90%以上が回答。	・ボランティア活動を学校と して推奨し、全校でボラン ティア学習を行う。 ・日常的なマナー・ルール の凡事徹底。校則や委員会活動 など、生徒会を中心に生徒が 主体的に考え、企画し、運営 できる生徒を育成する。	○学校アンケート 自ら挨拶をする肯定的意見 <b>86.5%</b> 生徒会や委員会肯定的意見 <b>76.6%</b> ボランティア参加肯定的意見 <b>22.4%</b> ○次年度のボランティア組織の整 備する。	ボランティアに関心 のある生徒は多数いる が、受け皿がないのが 課題である。次年度は ボランティア部を中心 に地域、PTAと連携し、 生徒たちに活動の場を 提供する。	○
-------------------	--	---	--	--	---

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上と信頼される学校作り			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
教員の教育力（学習指導・生活指導・進 路指導）の向上と信頼される学校作り	アンケートで、90%以上の保護者が 「子どもを伊興中に入れてよかったと 思うと答える。	・第1回保護者アンケート肯定的 意見 <b>80.8%</b> 学校の活動を分かりやすく伝えて いる肯定的意見 <b>81.6%</b>	90%の満足度には届か ず、自由意見を教育活 動に反映していく。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教員の学習指導力の 向上	・分からないところを丁 寧に教えてくれる」「生 徒用タブレットをよく 活用している」と80% 以上の生徒が答える。	・全教員が年5回以上の授業 研究に参加する。 ・校内研修日を年3回以上設 定し、足立スタンダード授業 や「主体的・対話的で深い学 び」や「ICT活用」をテーマ に研修し、授業力向上を目指 す。 ・「ICT機器活用月間・週間」 を設定し、組織的に活用を促 進する・	・授業観察週間を5月、10月の 2回実施。略案を作成し、ICT を活用した授業を実施 ・生徒アンケート 分からないところを丁寧に教えて くれる <b>92.4%</b> めあて、振り返り <b>84.5%</b> ・研究授業でのICT活用は進んだ が、期間を設けた実施はできな かった。	アンケート結果は良好 であった。研究授業は 実施しているが、時間 割を調整しながら、教 員の積極的な授業観察 を進めていく。	○

教職員集団の育成と組織力の向上	・教育活動や対外的な対応に、保護者へのアンケートで80%以上が満足していると回答する。	・校務分掌の組織を分析し、より良い体制を構築する。 ・学校全体で共通理解を図りながら組織運営を行う。 ・管理職・主幹教諭・主任教諭による若手教師のOJTを計画的に実施する。	・自己申告面接で、各教職員から職務における強みと弱みをヒアリング。 ・新規採用教員へのメンターが機能している。 ・教員は生徒に役割を与えている肯定的意見 66.1%	職層による、職務内容を再確認させ組織的なOJTを実施する。	○
保護者、開かれた学校づくり協議会、地域と協働した信頼される学校作りとの協働	・「学校は保護者や地域と一体になって教育活動を行っている」と保護者・開かれた学校づくり協議会委員の80%が回答する。	・PTA・開かれた学校づくり協議会と定期的に会議を持ち、学校と保護者・地域との連携を図る。 ・HPを常に更新して学校の情報を発信し、各種たよりを定期的に発行する。保護者会、教育相談、協議会を計画的に実施する。	・HPの更新は月に1回実施。学校便り、行事予定、給食関係等。 ・各町会行事に積極的に参加し、関係の構築を続けている。 ・生徒のボランティア及び教職員をどこまで協力してもらえるかが課題。彰風まつりは生徒84名、教員15名が参加（昨年より上昇）	積極的に地域と連携したことで良好な関係を築けている。HPはリニューアルの準備を進めている。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項-1 学力向上

#### 1. 成果

- (1) 「授業規律を守っている。」肯定的 95%、「授業には積極的に参加している。」肯定的 85.2%。落ち着いた学習環境が整っており、学習意欲は高い。
- (2) 該当生徒26名に対して、近隣小学校の指導者12名と本校教員が連携し、充実した「中1夏季勉強合宿」が実施できた。
- (3) 家庭学習における「AIドリル週に100問」への取り組み、水曜日の確認テスト、木曜日の補習という学習サイクルが確立された。

#### 2. 課題及び解決の方向性

##### ○学力向上のための方策

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の推進：一人一台端末を活用し、学習者主体の授業スタイルを確立する。
- (2) 補充教室の充実：指導形態を柔軟に見直し。下位層の生徒が「わからない」を解消しやすい環境を整える。
- (3) 家庭学習の目標明確化：小中で連携し、目標時間を設定。取組内容を具体化し、スモールステップで習慣化を図る。

#### 重点的な取組事項-2 豊かな心の育成と社会的自立心の確立

#### 1. 成果

- (1) 「伊興中の生徒で良かった」90.5% 「学校生活が充実している」91.9%。高い肯定値から、自己肯定感の高まりが見られる。
- (2) 「運動会に一生懸命取り組んだ。」95.3%。行事への全力の取り組み成就感や自己肯定感の向上につながった。

(3) ゲストティーチャーによる特別授業や講演会を実施し、豊かな心の育成が図られた。

(4) 部活動には 80%が加入し、79.8%が意欲的に活動している。全教員が顧問として指導にあたり、複数の部活で都大会出場や吹奏楽部の全国大会金賞受賞など、顕著な実績を残した。

## 2. 課題及び解決の方向性

### ○不登校の未然防止と対応

(1) 現存の修学委員会の業務を整理・明確化し、不登校未然防止と不登校生徒への対応を専門とする特別委員会を再構築する。

(2) SSR (スモール・ステップ・ルーム) の開設にあたり環境を整備し、彰風ルームと共に一人一人に寄り添った支援を強化する。

### ○社会的自立心の確立

(1) 現存のボランティア部の組織や活動を見直し、全校生徒が参加できる活動機会を拡充する。

(2) WEBQUの結果を分析し、外部講師による校内研修の実施することで、生徒理解と学級経営の質を高める。

## **重点的な取組事項-3** 教師の指導力向上と信頼される学校づくり

### 1. 成果

(1) 年間2回以上のICT活用授業を意図的に実施。授業改善への意識が高まり、指導力向上が図られた。

(2) 年間3回の服務防止研修を実施。教育公務員としての自覚と資質向上に努めた。

(3) 開かれた学校づくり協議会の参加率が増加。いこう彰風まつり、生徒意見交換会の実施を通じ、学校・家庭・地域の連携を深めた。「学校は保護者と地域と一体となって教育活動を行っている。」保護者肯定的回答 73.2%。

### 2. 課題及び解決の方向性

#### ○教職員集団の育成と組織力の向上

(1) 校務分掌組織の見直し、機動力のある特別委員会を再構築する。

(2) 教職員の資質能力向上を目指し、ニーズに応じた校内研修を計画的に開催する。

#### ○信頼される学校づくり

(1) 学校ホームページのリニューアルし、情報発信を拡充する。C4thHome&School を有効に活用し、保護者への迅速な周知を図る。

(2) 土曜授業や学校公開の実施形式を改善し、保護者・地域の参加率向上を目指す。

(3) 生徒と保護者、おやじの会等で協働して取り組むボランティア活を推進する。

## (2) 保護者や地域へのメッセージ

### ①アンケートの実施

今年度は、前期・後期の2回のアンケートにご協力いただきありがとうございました。肯定的回答 90%以上を目指し教育活動を進めてまいりましたが、80%という結果でした。回答数も 40%以下となったため、回答率が上がるように質問項目や取組を見直してまいりますので、ご協力お願いいたします。

### ②学校公開、保護者会

保護者会や進路説明会には、多くの保護者の方にご来校いただきました。教育活動にもご理解ご協力をいただいております。一方で、学校公開や道徳地区公開講座等については、ほとんどご来校いただけなかったことを反省しております。授業の様子や学校生活の様子を見ていただけるような機会を増やしていきます。ホームページやブログ、C4thH&S を積極的に活用し、教育活動の広報に力を入れていきたいと考えております。

### **③ボランティア活動の充実**

生徒たちにボランティア活動の機会を広げ、異なる年齢層の方と活動を共にすることで多様な価値観を認め、自己肯定感の高まりにつなげていきたいと思えます。PTAの方、地域の方も一緒に活動していただき、生徒の健全育成にご協力ください。

#### **(3) その他（学校教育活動全般について）**

- ・次年度より、大規模改修工事を計画している。施設の狭小や老朽化で課題は多いが、計画的に工事を実行し、快適な学習環境を構築する。
- ・令和9年度創立50周年記念を迎え、秋の記念式典、祝賀会の開催に向けて準備委員会を立ち上げていく。